

観光地域づくりの推進

多様化する個人観光客のニーズを受け止められる観光地となるためには、観光事業者のみならず市民がプレーヤーとなり、観光地域づくりに取り組むことが不可欠です。この観光に結びつく地域づくりが外貨獲得につながり、それが地域に還元されるという経済の好循環を生じさせなければなりません。

(1) 観光地域づくりのかじ取り役としてのDMOの構築

観光事業者のみならず、さまざまな生業を営む島民と一緒に「何ができるか、何が旅行者に受けるか」を考え、実行するためのプラットフォームとして一般社団法人「佐渡観光交流機構」(仮称)を設立します。このDMOには、本市が地域間競争に勝ち抜くため、旅行コストの低減と佐渡ならではのお得感のある多様な体験商品づくりについて大きな役割を担ってもらいます。

また、旅行シーズンを拡大し、それぞれのシーズンにどんな魅力があるのかしっかりと情報を発信するとともに、地域の魅力である芸能と文化を最大限活用した国際的な文化芸術の発信拠点となる新事業をスタートさせます。

(2) 文化・芸術資源の磨き上げと活用

これまで伝統文化の活用は「文化財」「観光」「地域づくり」のそれぞれの観点から進められてはきたものの、一元化された戦略がなかったため、一般財団法人「佐渡文化財団」を立ち上げ、伝統文化等の「継承」「活用」「情報発信」を推進する体制を整備し、多様な関係者同士が横断的に連携して事業に取り組み、文化を基軸とした島の活性化を推進します。

(3) 歴史的風致の維持向上のための環境整備

世界遺産登録を目指す佐渡金鉱山遺跡や鉱山を支えた人びとがつくり出し暮らし続けてきた貴重な町並みの景観が、鉱山祭りははじめとするさまざまな習俗、祭礼と共に人々の日々の営みの中で育まれ、今日まで守り伝えられてきました。

地域の歴史や伝統を伝える人々の営みと、その活動が行われる場としての歴史的建造物や周辺の景観を一体に捉え、人と風土とが形成してきた「歴史的風致」としての保全と活用が必要です。

こうした町の環境を「維持」あるい

は「復元」または「修景」等に取り組むことを目的として、平成29年度から官民協同による歴史的風致維持向上計画の策定を始めました。策定した計画に基づき、国からの支援も活用しながら、文化財としての町並みの保護と周辺環境の整備を一体的に取り組み、地域の歴史や伝統の特性を活かした個性あふれる「相川まちづくり」を目指します。



相川の歴史的町並み

産業の振興

佐渡の振興・活性化では、佐渡の強みである海・山・里の資源を十分に生かした産業開発あるいは雇用創出に取り組んでいくことが不可欠であり、農林水産業を柱とした地場産業の再生が急務となっています。

(1) 地産の充実と地産の拡大

本市では「地産地消推進計画」に基づき、地産地消のPR活動、学校給食や市施設での積極的な活用、観光関連施設での利用促進、佐渡産品直売所への支援など、島内での資金循環の仕組みによる生産拡大に取り組んできました。しかし、島内市場での佐渡産野菜の取扱量は10%以下の低い水準で推移していることから、これまでの作られたものを消費する「地産地消」の考え方から、消費市場の需要に応じた生産を目指す「地産地産」へと切り替える必要があります。市場や実需者のニーズを分析した生産(マーケット・イン)により地産の充実を図り、海外展開も含め世界農業遺産ブランドによる佐渡産農産物の高付加価値販売により地産の拡大につなげます。



地産地消フェスタでPR活動